



## 編集・発行

アカデミア・コンソーシアムふくしま事務局

〒960-1296 福島市金谷川1番地  
福島大学 地域連携課内

電話 024-548-5295

メール acf@adb.fukushima-u.ac.jp

URL http://u-renkei.net.fukushima-u.ac.jp

## 「強い人材」の育成を目指して

アカデミア・コンソーシアムふくしま  
事業推進会議 議長 小沢 喜仁

昨年10月より実施しております文部科学省・大学間連携共同教育推進事業「ふくしまの未来を拓く“強い人材”づくり共同教育プログラム」につきましては、各機関の皆さまのご協力とご支援に改めて感謝申し上げます。この事業は、復興過程にある福島県において未来を拓く「強い人材」の育成、すなわち質の高い教育を地域の総力を挙げて実施していくことが不可欠という課題意識をもとにまとめたものです。教育の方法論にはいろいろな手法があるかと思いますが、昔も今もその本質は変わらないのではないかと考えています。

私の恩師はその最終講義の中で「類推と転用」と題して工夫することのたいせつさを述べられました。この前の段階に「模倣」を加え、あとの段階に「独創」を加えて、「模倣、類推、転用、独創」というプロセスが新しいものやことを創造していくための基本ではないかと私は考えています。若い世代にとって、これまでの技術や方法を完璧にまねすること、すなわち「模倣」によりこれまでに蓄えられた英知を身につけることが不可欠です。さらに、このことをもとに「これはもしかしたらこちらに使えるかもしれない」と考え、工夫してやってみることとなります。失敗することもあるかもしれませんが、工夫しだいではうまくいき、これまでの技術や方法が新たな分野や事柄に「転用」が可能となるかもしれません。この段階で大成功となりますが、さらにまわりの人が新しいことと認めるときに「独創的」と賞賛が与えられることとなります。

全く新しいものや事柄を生み出すことは、科学や文化が高度に複雑化し、豊かで質の高いものがあふれ、国境を超えた情報交流が活発な現代においては、容易いことではありません。しかし、地域の豊かさが傷つけられたふくしまにおいては、地域のアイデンティティを形成している豊かさの根源を認識して、「模倣」をもとにしっかりと若者たちに伝えていくこと、このことから始めていく必要があるのではないのでしょうか。

## 大学間連携共同教育推進事業

## ◆ 教職協働セミナーご報告

12月21日(金)、福島大学総合教育研究センターの特別教室において、「平成24年度教職協働セミナー」を開催しました。このセミナーでは、立命館大学独立研究科事務室の青山佳世氏、沖縄国際大学総合文化学部准教授の藤波潔氏、福岡教育大学教育支援課の小菜原郎氏の3名を講師としてお招きし、各大学における教職協働が実現した背景、そしてその現状と課題についてお話をいただきました。福島県内の高等教育機関からのべ20名が参加をし、グループワークを通じて出された意見に基づき、会場全体で議論を深めました。

本連携事業において、教職協働はすべてのプロジェクトにおいて欠かせない考え方です。これからも、単にFD・SDの同時開催ではなく、県内の各高等教育機関内でも教職協働によって生み出される成果がより有効で有意義なものとなるよう、このような福島県内の高等教育機関における教職協働を意識する場を継続して設けたいと考えています。

## ◆ 三宅島見学の募集と説明会について

3月5日(火)～9日(土)に三宅島訪問・調査へ出かけます。三宅島民は2000年に島の中心部にある雄山噴火のため全島避難となり、4年5ヵ月後に帰島し復興が始まりました。現在は火山ガスと共生しつつ、火山の恵みを活かす道を歩んでいます。

今回の訪問では各校のご担当者様のご協力のおかげで、合計26名(奥羽大3名・桜の聖母短大4名・テクノアカデミー郡山3名・福島県立医科大6名・福島大10名)の申し込みがありました。ありがとうございます。予想をはるかに超える参加者からは、全島避難という前例のない経験をした三宅島民から福島復興の糸口を学ぼうとする強い意欲が感じられます。

なお、参加者には事前学習会(2月4日(月):医大、2月20日(水):TVシステム)が行われ、三宅島民が体験した全島避難・帰島・復興のこれまでの歩みを学習します。

## ◆ 合宿型討論会のお知らせ

平成25年3月2日(土)～3月3日(日)に、ACF参加校の教職員および学生、ステークホルダーを対象として、「福島に求められる『強い人材』へ向けて」のテーマの下、合宿型討論会を開催します。キャノン福島とNPO法人芋麻倶楽部から講師をお招きしての講話と、ワールド・カフェという手法を用いたグループ・ワークを企画しています。

郡山市磐梯熱海の「金蘭荘 花山」にて、参加費無料で開催します。

立場の異なる人々との交流を通して、これからの福島に求められる「強い人材」とは何か、「強い人材」を育成するために必要なこと、「強い人材」に成長するために必要なことについて検討しましょう。

普段、なかなか接点を持つことができない人たちと交流できる大きなチャンスです。是非、参加してみてください。

お申し込み先については、別途ポスターを参照の上、各お問い合わせ・お申し込み先までご連絡ください。

## ◆ 地域のもづくりに関する理解を深めた製造現場ツアーを開催します

3月5日(火)に、IH相馬第1工場・第2工場のご協力を得て、同社生産設備の見学会を開催します。この工場ではジェットエンジン用タービンプレード生産システムを見学させていただき、福島県内の産業が国内のみならず世界に向けて大きな役割を担っていることを、参加者各々の目で確かめることができる貴重な機会となるでしょう。

募集対象は福島県内の高等教育機関に在籍する学生で、引率という形で教職員の参加もお待ちしております。2月5日(火)付けで各校の事務ご担当者様宛てにご案内をお送りしておりますので、お申し込み方法については各ご担当者様までお確かめください。募集定員は30名、お申し込み締め切りは2月15日(金)です。お早めにお申し込みください。

## ◆ 平成25年度の事業申請について

本事業の運営につきましては、ACF会員機関の皆様のご協力により、着々と進行しているところです。

平成24年度は準備、試行段階、そして平成25年度からは実施というスケジュールになっておりますが、平成25年度の事業申請が2月25日までとなっております。

本事業は、「大学間の連携」「ステークホルダーとの協働」がキーワードとなっており、ACFが一丸となった取り組みであることが求められています。

次年度以降の事業計画策定においても引き続きACF会員機関の皆様のご協力をいただくことになろうかと思います。

大変お忙しいこととは存じますが、何卒よろしくお願いいたします。

## 福島県内大学等への風評被害対策事業

### ◆ 今後の事業の進め方について

県内大学等への風評被害対策事業につきまして、皆様からの貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。

いただいたご意見と進路選択に関するアンケート調査の結果より、多くの方々に県内の高等教育機関の魅力を知らせてもらい、進学候補先として選んでもらうために、「なにができるか(学べるか)から大学を探すことのできるようなWebサイト」の作成を進めていきます。またWebサイトの周知に伴い、URLとQRコードを記載したカードを県内の高校生に配布する予定です。また、全国の高校にはWebサイトを周知するチラシを送る予定です。

なお、Webサイトの公開開始、カード等の配布につきましては3月中の予定です。

今後ともご協力をよろしくお願いいたします。

## コラム ～ ACふくしまの事務局から ～

### ◆ わが町、大好き

研究員 安斎 悠史

はじめまして、こんにちは。ACF事務局の安斎と申します。今回はニューズレターれんげいのスタッフからの一言のところ書くことになりました。

私は川俣町出身で、昨年、7年ぶりに川俣町に帰ってきました。それまでどこにいたかということ、東京近辺を転々としてました。家庭の事情もあって、昨年実家に戻ってきたのです。(まあちょくちょく帰ってきていたのですが)

で、改めて私の家の周りを見回したら、いろんな建物がなくなってるじゃありませんか。私の家は商店街の端っこにあるのですが、スーパー、食堂、酒屋、時計屋、総菜屋、寿司屋が次々に建物ごとなくなって、空き地に囲まれた我が家がぼつんとあるだけのような状態になっていました。聞けば理由は様々で、主人が亡くなった、夜逃げした、震災の影響で建物が危険だとか。空き地がいっぱい、空家もいっぱい、もとからさみしい町がますますさみしくなっていました。誰か来てくれませんか？

次号は3月15日(金)の発行予定です。